

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第9週（3月1日～3月7日）

## 今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

### 定点把握感染症

「定点把握疾患報告数 増加傾向続く」

第9週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,209例であり、前週比23.6%増で、前年同週比86%（2020年 第9週 1,405例）であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.76、0.94、0.79、0.30、0.15である。

感染性胃腸炎は前週比22%増の736例で、中河内5.80、南河内5.75、泉州4.85、大阪市南部4.41、北河内4.15であった。

RSウイルス感染症は25%増の185例で、大阪市北部5.29、南河内2.38、大阪市東部2.07である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は47%増の154例で、中河内1.55、泉州1.35、大阪市西部1.10であった。

咽頭結膜熱は16%増の29例で、大阪市北部0.50、中河内0.30、大阪市西部0.20である。

インフルエンザは67%減の2例で定点あたり報告数は0.01であり、昨年同週（2020年 第9週 2,941例）に比して著減した状態が続いている。

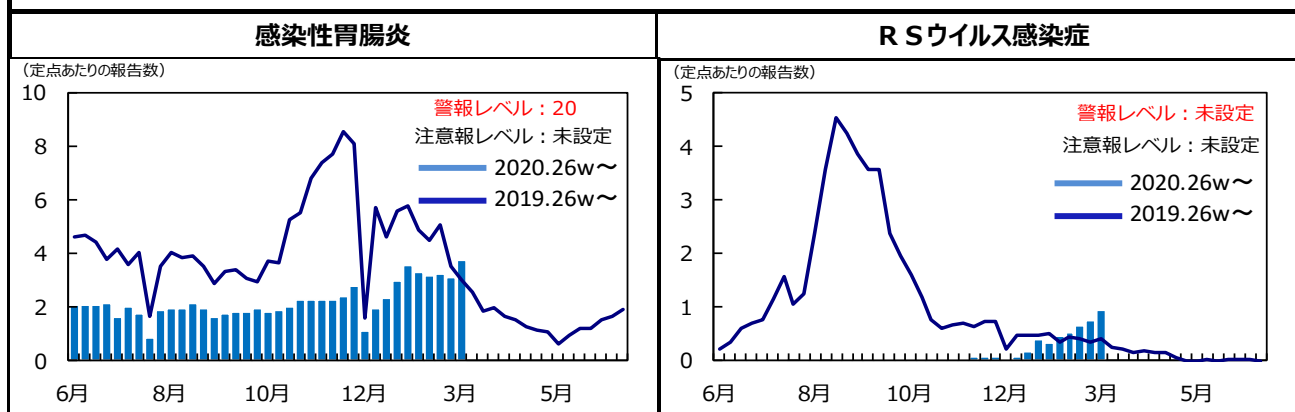


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第9週3月1日～3月7日）

第9週の順位	第8週の順位	感染症	2021年 第9週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第9週の 定点あたり 報告数	2021年第9週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	3.76	22%増	3.54	2歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	0.94	25%増	0.33	2歳_36%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.79	47%増	2.10	4歳_14%
4	4	突発性発しん	0.30	7%増	0.21	1歳_53%
5	5	咽頭結膜熱	0.15	16%増	0.28	1歳_34%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	67%減	9.80	2歳・20歳以上_50%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2020年第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第9週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2020年の梅毒報告数は、2018年、2019年を下回っている

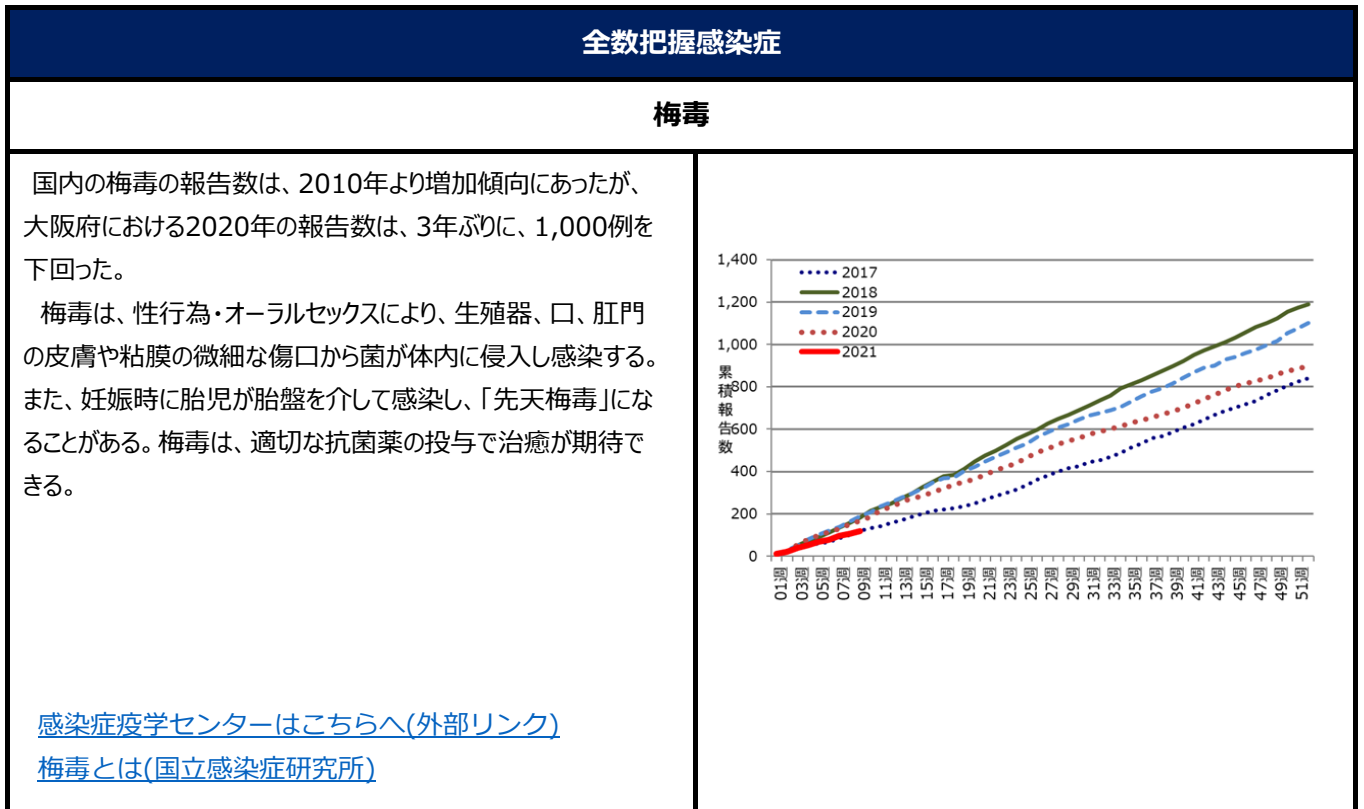


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第9週3月1日～3月7日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1					1				13
5類感染症	アメーバ赤痢	1	1								6
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1			21
	後天性免疫不全症候群	1								1	11
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2			1					1	4
	梅毒	14	1			1	1	1	1	9	119
	百日咳	1						1			6
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	547	2020年1月以降 累計 47,670								
結核 (2021年1月分)	結核 新登録患者数：69名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 24名) (府内累積報告数 69名、内 肺・喀痰塗抹陽性 24名)									

(2021年3月9日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)